

ブリュッセルはリード・エルゼビアにダメージを与える（リチャード・レイ）

- ・雑誌論文の価格設定は「科学の進歩を妨げる」
- ・インターネットアクセスの提案は利益の上がる事業を危険にさらす

Wray, Richard. Brussels delivers blow to Reed Elsevier. *The Guardian*, Wednesday April 19, 2006.
<<http://business.guardian.co.uk/story/0,,1856426,00.html>>

欧州委員会（European Commission）の報告書ーリード・エルゼビアやドイツのシュプリンガーのようなメディア・グループの利益の上がる科学出版事業に対するダメージを招くーによれば、ヨーロッパの納税者が助成した科学研究はインターネットを通じて誰でも無料で利用できなければならない。

EU のためにツールズ大学およびブリュッセル自由大学の経済学者が作成した報告書は、1995 年までの 20 年間で科学雑誌の価格がその期間を通じたインフレ率の 300%以上の上昇を示す。その後 10 年間に、価格の値上りは鈍化した。依然としてインフレをはるかに上回った。

「既存の出版物システムの社会的価値を強調するのは重要であるが、公的予算の財政面のみならず知識の配布の制限の点でひいては科学の進歩にかんして、高い雑誌価格と関連している社会的費用を認識することも重要である」と報告書は結んでいる。

今月公表され、参照のため夏まで公開される本報告書は、公的な資金助成を受けた研究についてのオープンアクセスを勧告する。EU の助成を受けた研究者は、誰でも無料でアクセスできるウェブ・ベースのアーカイブに、購読雑誌に出版された論文のコピーを置くことを「義務化」すべきであると提案する。

リードやシュプリンガーやブラックウェルや何百もの学会のような、雑誌を通じて金を稼いでいる従来の出版社の心配は、研究がインターネット上で無料になれば、誰もが雑誌の予約購読に金を払わなくなることである。

EC の勧告ー著者のセルフアーカイビングとして知られているものーは、2004 年の夏の英国の下院科学技術特別委員会の提案と似ている。その提案は英国政府からいいかげんな対応を受け、リードの経営最高責任者であるクリスピン・デイビス卿（Sir Crispin Davis）によってその考え方は「馬鹿げている」と烙印を押された。リードは昨日、EC の報告書は科学出版を巡る論議についての一段と進んだ貢献であると歓迎した。

ハロゲートおよびネアズバラ（Harrogate and Knaresborough）選挙区の自由民主党下院議員で現在科学技術特別委員会の委員長である、ピーター・ウィリス（Peter Willis）は、「英国政府や科学担当大臣セインズブリー卿（Lord Sainsbury）が、これは私たちが支援することと同じであると発言する好機である」と説明する。

「私は **EC** の勧告を喜んでおり、実際、英国政府が同様の原則を英国の出版市場に適用する触媒として作用することを期待している」と彼はいった。「今は苦しい状況に耐える時期であり、これは出版の将来である。」

昨年、英国の 8 つの公的研究助成機関を扱う英国の研究委員会は、できる限り速やかにアーカイブに研究成果を置くことを助成条件とすることを提案した。それは従来の出版社からの批判の連発を招き、オープンアクセスについての最終的な政策要項は未だに浮上していない。

EC の報告書は、また、それによって研究者がインターネット上であらゆる人に無料で出版するために論文の費用を支払う、新しい形式の「オープンアクセス出版」の実験を提案する。

例えば、**BioMed Central** は、生物学および医学分野の 110 オープンアクセス雑誌を発行している。

その社長、マシュー・コックレル (**Matthew Cockerill**) は **EC** の報告書について次のように述べている。「それは **BioMed Central** がここしばらく主張していることを裏付けている—科学者と助成機関は、高い費用で制限されたアクセスを提供する伝統的な出版システムから貧弱な取引しか得ていないのだ。」